京都先端科学大学

卒業生調査結果（2024 年度）

【調査概要】

調査目的：本調査の主目的は教育改善に資する基礎データの取得である。昨今、中教審教学マネジメント指針で謳われている卒業生からの評価を通じ、学位プログラムを修了した本校の卒業生が、実際に「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力の修得に資するものであったか、身に付けた資質・能力が進学先や就業先でどのように役立っているか等を明らかにし「学修成果・教育成果の把握・可視化」の一つの客観的データとし、結果を教学の改善に利用することを主目的とする。

調査対象：京都先端科学大学卒業生（2019 年度卒、2021 年度卒）

調査方法：インターネットによる WEB アンケート

調査期間：2024 年 6 月 7 日～2024 年 6 月 30 日

【回答結果】

回答者属性

発送数：1419 件(不達等で 129 件を除外、母数は 1290 とカウント)

集計対象数：241 人

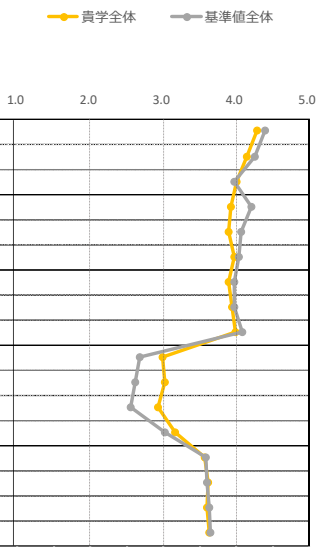
実質回収率：18.6%

卒業年度別	件数
2019年度卒（2020年3月卒業）	103
2021年度卒（2022年3月卒業）	138

学部別	件数
経済経営学部	77
人文学部	48
バイオ環境学部	48
健康医療学部	68

社会で必要な能力と大学で身につけた能力（必要度と修得度）

Q. 必要度：社会で必要な能力



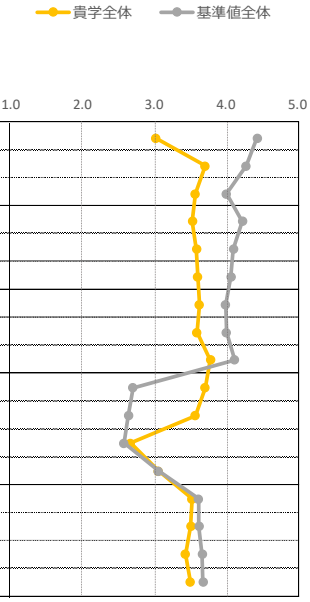
上位2項目
下位2項目

				加重平均値 貴学全体 N=288	加重平均値 基準値全体 N=1548	基準値全体と貴学全体の差
コンピテンシー	対人基礎力	親和力	1. 他者との豊かな関係を築く能力	4.31	4.42	-0.11
		協働力	2. 目標に向けて協力的に仕事を進める能力	4.16	4.27	-0.10
		統率力	3. 場を読み、組織を動かす能力	4.03	3.99	0.03
	対自己基礎力	感情制御力	4. ストレスのかかる場面でも、気持ちの揺れを制御する能力	3.95	4.22	-0.27
		自信創出力	5. 前向きな考え方、やる気を維持する能力	3.92	4.09	-0.17
		行動持続力	6. 主体的に動き、よい行動を習慣づける能力	4.00	4.06	-0.06
	対課題基礎力	課題発見力	7. 様々な角度から情報を分析し、課題の原因を明らかにする能力	3.91	3.98	-0.08
		計画立案力	8. 課題解決のための適切な計画を立てる能力	3.97	3.99	-0.03
		実践力	9. 目標達成に向け、実践行動する能力	4.01	4.11	-0.10
大学での学修		専門知識	10. 大学の専門科目で学んだ知識・技能	3.00	2.69	0.31
		一般教養	11. 大学の教養科目で学んだ知識・技能	3.03	2.63	0.41
		外国語能力	12. 外国語を使う能力	2.95	2.56	0.38
		データサイエンス能力	13. 数理的思考力とデータ分析・活用能力（基礎情報科学、統計学）	3.17	3.04	0.13
リテラシー		情報収集力	14. 課題発見・課題解決に必要な情報を見定め、適切な手段を用いて収集・調査・整理する能力	3.59	3.60	-0.01
		情報分析力	15. 収集した個々の情報を多角的に分析し、現状を正確に把握する能力	3.63	3.61	0.02
		課題発見力	16. 現象や事実のなかに隠れている問題点やその要因を発見し、解決すべき課題を設定する能力	3.61	3.65	-0.04
		構想力	17. さまざまな条件・制約を考慮して、解決策を吟味・選択し、具体化する能力	3.65	3.67	-0.02

○全　　体：「1. 他者との豊かな関係を築く能力」次いで「2. 目標に向けて協力的に仕事を進める能力」が高く、「10. 大学の専門科目で学んだ知識・技能」「12. 外国語を使う能力」が低い。

○基準値との比較：「10. 大学の専門科目で学んだ知識・技能」「11. 大学の教養科目で学んだ知識・技能」「12. 外国語を使う能力」が基準値全体と比較して高い傾向がある。

Q. 修得度：大学で身につけた能力



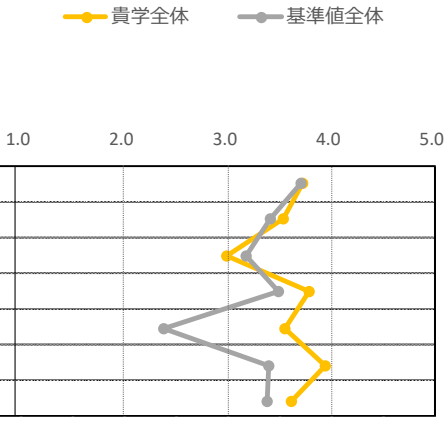
上位2項目
下位2項目

				加重平均値 貴学全体 N=288	加重平均値 基準値全体 N=1548	基準値全体と貴学全体の差
コンピテンシー	対人基礎力	親和力	1. 他者との豊かな関係を築く能力	3.00	4.42	-1.42
		協働力	2. 目標に向けて協力的に仕事を進める能力	3.70	4.27	-0.57
		統率力	3. 場を読み、組織を動かす能力	3.56	3.99	-0.43
	対自己基礎力	感情制御力	4. ストレスのかかる場面でも、気持ちの揺れを制御する能力	3.52	4.22	-0.70
		自信創出力	5. 前向きな考え方、やる気を維持する能力	3.57	4.09	-0.52
		行動持続力	6. 主体的に動き、よい行動を習慣づける能力	3.59	4.06	-0.46
	対課題基礎力	課題発見力	7. 様々な角度から情報を分析し、課題の原因を明らかにする能力	3.61	3.98	-0.37
		計画立案力	8. 課題解決のための適切な計画を立てる能力	3.58	3.99	-0.41
		実践力	9. 目標達成に向け、実践行動する能力	3.77	4.11	-0.34
大学での学修		専門知識	10. 大学の専門科目で学んだ知識・技能	3.70	2.69	1.01
		一般教養	11. 大学の教養科目で学んだ知識・技能	3.56	2.63	0.93
		外国語能力	12. 外国語を使う能力	2.65	2.56	0.09
		データサイエンス能力	13. 数理的思考力とデータ分析・活用能力（基礎情報科学、統計学）	3.05	3.04	0.01
リテラシー		情報収集力	14. 課題発見・課題解決に必要な情報を見定め、適切な手段を用いて収集・調査・整理する能力	3.51	3.60	-0.09
		情報分析力	15. 収集した個々の情報を多角的に分析し、現状を正確に把握する能力	3.49	3.61	-0.11
		課題発見力	16. 現象や事実のなかに隠れている問題点やその要因を発見し、解決すべき課題を設定する能力	3.42	3.65	-0.23
		構想力	17. さまざまな条件・制約を考慮して、解決策を吟味・選択し、具体化する能力	3.49	3.67	-0.18

○全　　体：　「9．目標達成に向け、実践行動する能力」次いで「2．目標に向けて協力的に仕事を進める能力」「10．大学の専門科目で学んだ知識・技能」が高く、「1．他者との豊かな関係を築く能力」「12．外国語を使う能力」が低い。

○基準値との比較：　「10．大学の専門科目で学んだ知識・技能」「11．大学の教養科目で学んだ知識・技能」が基準値全体と比較して高い傾向がある。

Q．大学時代の取り組み姿勢・熱心度



上位2項目
下位2項目

	加重平均値		
	貴学全体	基準値全体	基準値全体と貴学全体の差
	N=288	N=1548	
1．専門科目の講義	3.74	3.73	0.01
2．教養科目の講義	3.55	3.43	0.12
3．外国語の学修	3.01	3.19	-0.18
4．卒業論文・卒業研究・専門分野のゼミ	3.80	3.50	0.30
5．部・サークル活動	3.57	2.40	1.17
6．アルバイト	3.96	3.41	0.55
7．就職活動(国家試験のための勉強も含む)	3.63	3.40	0.23

○全　　体：　「6．アルバイト」、「4．卒業論文・卒業研究・専門分野のゼミ」、「5．部・サークル活動」が高く、「外国語の学修」が低い。

○基準値との比較：　特に「6．アルバイト」、次いで「4．卒業論文・卒業研究・専門分野のゼミ」、「5．部・サークル活動」が高い。

重要なことは、**「成長実感を促す機会は、大学生活の中で経験できること、対人関係の構築(友人だけでなく教職員も含む)や、卒論、卒業研究や専門ゼミ、討論等の学修体験、専門性を深める学修等、多くあふれている」**という事を教職員側は意識的に指導し、学生側もそれを認識して行動に移すことが大切である。そのためには、**「自分が何を通じて・どのような能力が鍛えられているのか」を事前に把握して取り組み、事後に振り返り、改善に繋げていくこと**が重要である。その認識を高める方法として**「振り返り」**が効果的であるとも言われており、意図的に振り返りの機会を設定していくことも重要である。

大学生活に対する満足度

Q. 大学生活に対する総合的な満足度（複数回答）

			とても満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満	とても不満	無回答	満足している・計	満足していない・計
		(%)								
全体		(n= 241)	20.3	47.7	21.2	7.9	2.9		68.0	10.8
学部別	経済経営学部	(n= 77)	19.5	42.9	20.8	15.6	1.3		62.3	16.9
	人文学部	(n= 48)	18.8	50.0	20.8	8.3	2.1		68.8	10.4
	バイオ環境学部	(n= 48)	27.1	47.9	18.8	2.1	1.2		75.0	6.3
	健康医療学部	(n= 68)	17.6	51.5	23.5	2.9	1.4		69.1	7.4

【総括】

今回は、2019 年度および 2021 年度卒業生が調査の対象となった。いずれも旧カリキュラムで学修した卒業生であることに留意する必要がある。また、2021 年度卒業生については、3 年次および 4 年次はコロナ禍で学修したことも考慮しなければならない。回答率は 18.6%となり、昨年度の調査から 2.9%上昇した。

熱心度および満足度の度合いでは、昨年度に引き続き、アルバイトがもっとも高かったが、今回は人文学部やバイオ環境学部中心に卒業論文・卒業研究・専門分野のゼミも高かったのが特徴的である。

必要度では、親和力や協働力が高く、昨年度と同じ結果となった。他方で、修得度では、実践力がもっとも高く、次いで協働力および専門知識・技能が高かった。親和力の修得度は昨年度の調査結果から減少し、要因と改善策を検討する必要がある。

次年度以降の調査では、現行カリキュラムで学修した卒業生が調査の対象となる。外国語学習などの満足度、必要度、修得度などを注視していきたい。

以上